

【別添資料】（令和2年度 宜野湾市立大山小学校）

## 1 水泳学習の意義

- (1)多くの子どもの興味関心を引きつける学習であること。子どもにとって毎年の水泳学習は待ち遠しいもので、水泳運動を通して仲間と絆を深めたり、自らの目標を達成する喜びを得たりすることが期待できる。
- (2)他の運動とは異なる効果が期待できること。水圧により呼吸筋が発達し、心肺機能の向上が期待できる。また、血液循環が活発になり基礎体温が上昇し、免疫力が高まる。
- (3)本県の水難事故発生率は、全国でもワースト3（令和元年度）となっており、本校も海に近い地域である。水中での安全な活動について正しい知識や技能を身につけることが望ましいと考える。

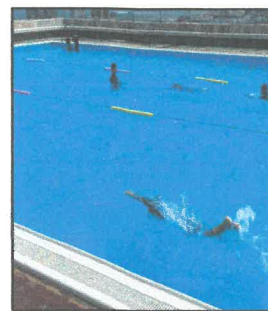
## 2 プール内での感染リスクは極めて低い

厚生労働省によるとウイルスは、プールの次亜塩素酸ナトリウムにより死滅すると言われており、学校プールの残留塩素濃度の基準は、0.4 mg /L 以上とされている。本校のプール内はどの場所（プールの中央からサイド、四隅まで）に置いても基準を満たしていることから、プール内での感染リスクは低いと考えられる。

## 3 具体的な対応策について

### (1)密集を避ける対策

○本校における水泳指導では、T・T（チーム・ティーチング）を基本とし、指導者が2人以上で行う。そうすることで小グループに分かれて活動することができ、少人数での指導が可能になる。また、コースを指定したり、適宜コースロープを使用したりするなど、一定の間隔を保ちながら学習ができるよう環境を整える。



○更衣室の使用は10人以下とし、使用するロッカーの間隔を空ける。女子は、2つのプール更衣室を使用し、分散して着替えができるようにする。男子はプール近くの空き教室を利用し、子ども同士の間隔を空けながら着替えができるようにする。



○学習中、体を拭くためのタオルや水筒などを置く「持ち物置き場」を分散して使用するための目印を付ける。



## (2)密接を避ける対策

- プールサイドにおける活動（集合や準備体操、指示・説明等）は、児童同士の間隔を2m以上空け、10分以内を基本とする。プールサイドには、ソーシャルディスタンスを保つことができるよう印をつける。



- 指導者による指示・説明も極力声を出さずにハンドサイン等で行えるように指導を徹底する。（児童の安全上、必要な場合を除く）



## (3)密閉を避ける対策

- 更衣室やトイレなどは、プライバシーを保護できる範囲で換気を行い、授業後は、毎時間消毒をする。

## (4)その他の対策

- 更衣室やトイレの出入口には、消毒液を置く。
- 授業の前後、更衣室使用の前後は手洗いを徹底する。
- 児童間の道具の貸し借りは避ける。
- 学習で使用する用具等は、毎時間消毒する。（ビート板、ヘルパー、ドアノブ、蛇口など）
- 健康観察シートによる児童の健康状態の把握
- プール内の残留塩素濃度の徹底管理

## 4 留意事項

- ・水泳学習実施の予定は、現在の沖縄県における感染状況によるものであり、今後の状況により水泳学習を中止する場合もある。本市教育委員会や学校長判断のもと決定する。
- ・体調不良の児童や入水を許可されない児童など見学になる場合は、水泳学習における知識を得るための学習を提供するなど、実技に代替する学習を体調に配慮する場所で行えるようにする。

本件に関する問合せ  
担当：山田 秀人（体育担当）  
TEL：(098) 897-2174